

アイユ

2



2012年 Vol.249

 (財)人権教育啓発推進センター

石巻市・牡鹿半島の救済でがれきの撤去作業に励んだ日本財団学生ボランティア(昨年8月) 〓同財団提供(関連記事へ入権とく)に



主な記事

	<人権とく>座談会⑥「ボランティア活動が創る絆」日本財団学生ボランティア …………… 1
	連載<いのちくらし〜寄り添って〜>「人権尊重は身近な足元から」黒田 裕子さん …………… 8
	ハンセン病差別撤廃へ「グローバル・アピール2012」 … 11 <テムズの岸辺から>「英国の人種差別殺人事件」大内 佐紀さん … 21
	<人権作文>法務大臣賞「障がい者の私にできること」、文部科学大臣奨励賞「温かさを分け合って」 …………… 15





東日本大震災特集 座談会

学生ボランティア

- 生成 温 さん 杏林大学
- 大松 澤 千佳 さん 立教大学大学院
- 堂地 優希 さん 青山学院大学
- 真継 剛 さん 横浜国立大学
- 宮本 匠 さん 筑波大学大学院
- 安井 将人 さん 明治大学

日本財団学生ボランティアセンター・センター長

西尾 雄志 さん 早稲田大学平山郁夫
記念ボランティアセンター客員准教授

横田 洋三

(財)人権教育啓発推進センター理事長

公益財団法人日本財団の「学生ボランティアセンター」、通称「ガクボ (Gakuvo)」を通して、多くの学生が東日本大震災の被災地でボランティア活動に励んでいます。「アイユ」誌では彼ら彼女らの思い、活動ぶりを伝えたいと、同センターの仲介でうち6人に集まってもらい、昨年10月24日、同財団内をお借りして座談会を実施しました。先月1月号に続いて、今2月号で座談会の後半を掲載します。

ボランティア活動が創る絆
日本財団学生ボランティアたちの活動 (下)

■泥まみれの写真、
食器に胸が詰まる

食器に胸が詰まる

日がありました。マイクロバスで周りを
見て回ったのですが、地元の方のお世話
で本当にいい体験をさせてもらいまし
た。

横田 ほう、それはそれは。どんな体
験ですか？

真継 ある「道の駅」で、高齢の地元
の方が「ボランティアがきてくれるのは
すごくうれいんだが、自分たちの所よ
りもっともっとひどいところがあるん
だ」とおっしゃるんです。私ともう一人

の仲間で、財団さんの許可をもらって軽
トラックで連れて行ってもらったんです
が、確かに悲惨な状況でした。

横田 どこですか？

真継 岩手の山田町です。現在はもう
だいぶ片づいているようですが、その時
は、本当に被災直後という感じでした。
現地の方々が「何にも支援がない」と憤
っておられたのが、強烈に印象に残って
います。

横田 そうですね。もともとの田んぼ



のがれき除去は、結局どれくらいできたのですか？

真継 地道な作業で、丸一日かけて3面か4面くらいでした。本当にさまざまなもの回収しました。泥にまみれた写真や衣服、食器、本など、どれもすべて人間が生活していた品々なんだなあと、胸が詰まりました。すごく辛かったですね。

横田 いたたまれない思いだったと思います。ご苦労さまでした。宮本さんのボランティア活動は、どこでどんなことを？

■マイナスからゼロに、そしてプラスに

宮本 4月に石巻で、バスターミナルの泥かきをやりました。

横田 バスターミナルといったら町の中心部でしょう？

宮本 はい、メインストリート沿いです。市内は今では、本当にきれいに片付いていますが、そのころは、車がすれ違



宮本 匠さん

うのもやつと、というくらいに小ささまさまのがれきに埋もれていました。一つ取り除くにも大変な力が要る作業でしたが、

バスターミナルは、町の憩いの場なので早めにきれいにしてほしい、ということでした。

横田 憩いの場ですか？

宮本 そういう名前があるわけじゃないんです。駅にも近く、多くのバスが発着し、屋根つきの待ち合いベンチがあるなど、市民が集う場所という意味だったようです。そこが汚泥で埋まってしまい、見るに堪えない状態だったわけです。

横田 市民の方々が、早く元通りにと思っておられたのでしょうかね。

宮本 そうだと思います。私たちの作業に、通りがかりの方々が「ご苦労さま」とか、「もう、バスが通れるようになったの？」などと盛んに声をかけてくれました。

横田 重労働だけどうれしいですね。

宮本 はい。町の中にしる、家にしる、復旧していくにつれての被災者の方々の気持ちの変化を感じました。昨日も行って戻ってきたところなんですけど、復旧から復興へといえますか、プラスの作業をお手伝いするというのは本当に、うれい

横田 プラスの作業といえますと？

宮本 今は仮設住宅に入っておられる方々が、震災前に耕しておられた土地に土を入れて畑を作るお手伝いで、コーデイナーの方が言っておられたんです。がれき撤去はある意味で、マイナス

をとりあえずゼロにすることだが、畑を作るというのはゼロの状態からプラスを生み出していく活動だ、と。

横田 なるほど、確かにそうですね。

宮本 はい。すごい印象深い言葉でした。実際、畑ができれば土に触れようと皆さんが外に出てくるし、楽しみも生まれるはずですよ。とくに高齢の方が多く、非常に楽しみにしておられたので一緒に活動していただくうれしかったですね。

横田 意気になりますね。

宮本 はい。

■足湯、お茶ついで



安井 将人さん

横田 では次に安井さん、どんなことをやりました？

安井 基

本的にはいわゆる泥かきで、亡くなられた方々の供養をしようにもできないというお寺にも行きました。

横田 お寺も汚泥に埋もれていたんですね？

安井 はい。お寺の縁の下ギリギリまで入り込んでいました。5月の2回目は、海辺で散乱した漁具をまとめたり、破損した漁具を選別しながら回収する作業で



した。それと避難所で「足湯」のサービ
スをやりました。一角をお借りして、桶
やたらいにお湯を入れてくつろいでら
いました。

横田 いろいろやっただんですね。

安井 10月に、宮城の山元町で「カフ
エポランティア」もやりました。

横田 カフェですか？

安井 現地の方々がそう言うっておられ
たんです。「お茶っこ」とも言っていま
したが、いわゆる「お茶会」です。

横田 ああ、なるほど。

安井 仮設住宅のスペースをちよつと
お借りして、コーヒーやジュースを提
供し、語り、くつろいでいただこうとい
うコミュニケーション作りの場ですね。一
軒一軒声をかけて歩いてお誘いしまし
た。

横田 仮設住宅の孤立化が心配されて
いますから、そういう場があるのは大切
なことですね。で、どうでした？

安井 子どもたちがいっぱい来てくれ
ました。子どもたちは震災前は一人ひと
り別々の行動が目立っていたけれど、震
災後は何人かで集まるようになったそう
です。子どもたちは子どもたちなりに、
それぞれに何か不安感を感じていて、み
んなで自然に集まるようになってい
かないかなあ、と僕は勝手に想像しま
した。

横田 なるほど、本当にそうかもしれ

ません。安井さんは昨日も現地に行つて
いたんですね？

安井 はい。岩手の遠野ですが、沿岸
部で基礎しか残っていない住宅地で、流
され着いたままの品々の回収作業をして
きました。回収と言うと簡単に聞こえま
すが、今ではそういったところでも雑草
がぼうぼうに生い茂っていて、どこに何
があるか見えないんです。草刈りをやり
ながら見つかった品々を集めるという仕
事で、けっこう重労働でした。

横田 そうでしょうね。今の時期の作
業はもう、見つかったものをみなさん方
の判断で回収するわけですね？

安井 ええ。でも、漁具の部品なんか
ですと僕らにはわからないことがありま
すので、一緒に行動しておられた漁師さ
んに聞きながらやりました。それにし
ても、遠野の大槌町では今もまだ、がれき
が手つかずの所がありました。歯ブラシ
だとか掃除機、家族の写真といった生活
感のあるものをずいぶん回収しました。

■こんな私でも頑張らなきゃ



大松澤千佳さん

横田 いろ
いと貴重な
体験談をあり
がとうござい
ました。そう
いったさまざ



横田理事長

まな体験
をして、
たとえば
自分の人
生観が変
わったと
か、心の
中で変化
が起きた、

といったことはなかったでしょうか？
大松澤さん、どうですか？

大松澤 うーん、人生観ではないので
すが、ものすごいショックを受けたこと
がありました。活動に行った先で津波が
襲ってくる生々しい映像をビデオで見せ
てもらった時でした。家々、町並みが、
あっという間に消え去ってしまう一部始
終でした。

横田 そういうシーンは、テレビなど
でも見ていたのではないですか？

大松澤 ええ。でも、そのビデオは現
地の人が撮っていたもので迫力といいま
すか、生々しさが違っていました。すご
いショックを受けまして、こういう恐ろ
しい災害の後で活動しても、私の力なん
かではどうにもならないのじゃないかつ
て、率直に感じました。一方で、でもそ
んな私でも頑張らなきゃ、いったい誰が
頑張るんだ？ って葛藤にさいなまれた
といいますか……。

■「微力」だけど「無力」じゃない

横田 堂地さんは？

堂地 震災直後は、報道される惨状を見て本当にお気の毒って、私自身が落ち込んでしまったんです。被災者の方々は、今の私には考えられないような生活を送っておられる、と思うと私も深く傷ついてしまっていました。何かしなくちゃと現地へ行ったんですが、被災地の人に会うのがなぜか怖くなっていました。でも、想像とは全く逆でした。みなさんがしっかりと前を向いておられるし、初めて会った私に、笑顔で「よく来てくれたね。ありがとう！」っておっしゃったり、この町がどれだけ好きかを話されたりで、本当に勇気づけられました。一人で行って家に泊まらせていただいた漁師さんも、私の葛藤をお見通しだったようで、「自分がやりたいようにやればいいんだよ」と励まされました。人間の強さを感じ知らされました。

横田 貴重な体験ですね。真継さんも

何か変化がありましたか？

真継剛さん

真継 僕も同じような体験をしました。遠野の体育館に泊まらせていただいた時でした。ま

とめ役のような立場にいた方に「学生さんだから、微力なんだと思うかもしれないが、決して無力じゃないんだよ」って言うってもらったんです。なんてかつこういいことを言う人だろう！って、衝撃を受けるほどでした。

横田 真継さんの生き方というか考え方に、インパクトがあったわけですね？

真継 はい、間違いなく、衝撃といつていいほどのインパクトでした。ほかに、外国のボランティアの人と出会って、目を見開かされました。

横田 外国からやってきてくれたボランティアですか？

真継 はい。オーストラリアから来た人に、なぜここへ？って聞いたんです。そうしたら、「困っている隣人がいたら助けなさい、と聖書が教えている」と、逆になんでそんな事を聞くんだ？っていう感じでした。中国から来ていた人もいましたが、一方で日中間には尖閣諸島問題などがありながら、隣国の支援に来てくれているわけです。世界というレベルでの温かさのようなものを感じ、本当にいい出会いができたと思いました。

■「この先が不安で心配で……」

横田 宮本さんはどうでした？

宮本 自分は将来、教員を目指していましたが、社会経験も十分にある教師



になりたいと、ボランティア活動に積極的に参加しました。誰もが損得勘定抜きで、身を粉にして活動していました。一緒に行動していて、一人の人間として本当に尊敬できる人ばかりでした。何がどう変わっていくのかは全くわかりませんが、間違いなく何らかの影響を受けたと感じています。

横田 宮本さんならではの人生観の会得なのかと思いますが、安井さんは？

安井 当初は、「ボランティア活動をするんだ」「自分はボランティアなんだ」と、ボランティアということだけをあまりにも強く感じていました。でも、何回か活動しているうちに、困っている人がいて、自分のように支援することができる人間がいる、それは当り前のことじゃないかと思えるようになりました。本

当はその当然のことを、どこかで教わってきていたはずなのに忘れてしまっていた、それを強く感じました。それもこれも、このボランティア活動に参加したからこそわかったことでした。

横田 自分発見、の体験だったわけですね？

安井 そうですね。今までの自分は何事につけ、まず自分ありき、だったような気がします。でも、自分の周りにはさまざまな人がいてその中に自分という人間もいるのだ、ということも意識するようになりました。



生成温さん

うになりました。

横田 あらためて自分を見つめ直したということですね。最後に生成さんは？

生成 被災地の方々は、実は心の苦しみを悲しみをじっとこらえて、私たちに笑顔を見せてくださっているのだと感じました。表札を作って持って行った時も、どなたも非常に喜んでくださって嬉しかったんですが、20〜30分ほどして、改めてたとえば、あるおばあさんの手を握って「寒くないですか」などと同じ視線でお聞きしていくと、「これからが不安で心配で、どうしていいかわからない」って、だんだん本音というか「自分の心を開いてくださいました。」

横田 確かに、被災地の方々は私たちに對して、ご自分の辛さは押し隠すようにして、明るく気丈に対応してくださっていますね。

生成 はい。ですから私たちは、被災者の方々はこれからも、決して十分ではない条件の中で生きていかななくてはならないのだということをお忘れはいけない、と思うんです。ある被災された方がこう言っていました。「うちは、お父さんが漁業をやってみんなが生きてきた。でももう、それもできなくなった。仮設だつてずっと住めるわけじゃない。どうしたらいいかわからないが先のことを考えても答えは出ないから、とりあえず今は生きていく。本当に、今生きていくことしか考えられない」と。私たちは、難しいかもしれないけれど、一時的な関わり



りではなく、ずっと長いスパンで被災地と関わっていくことが大切だと強く思っています。

■いつも、そしていつまでも思いを

横田 一時的でない関わりを、というのは大切なことですね。いつも、そしていつまでも、遠くからかもしれないが、思い続けていますよ、というメッセージはどれほど力強いかわかりません。そうした考えこそ、人権の基本なんですね。しかも、現地に来ていろいろなることをやってくれる。励みになるし、元気づけられることと思います。そういう有形無形のつながりを、みなさんがそれぞれに体験したわけですが、やってみたらこそわかったこと、気付いたことなどがあつたら、発言してください。

宮本 災害時という日常とは全く違う環境へ飛び込むので無理もないと思うのですが、つつい仲間内、友人同士だけの行動になってしまうのが、ものすごくもったいないと思いました。一つの現場にはざっと80人も同世代の人間が集まるのに、どうしても仲間の輪だけの交流で終わってしまう。知らない大学の人たちと意思の疎通を図ったり、現地のコーディネーターさんと接することでまた別の世界も開けるかもしれないのに、残念だなあって感じました。





横田 つい、今いる大学の仲間や知り合いで群れてしまうということですね？

宮本 たとえば海外へ行くのも、一人のバックパッカーの方が、ツアーで行くよりはるかにいろんな体験ができるじゃないですか。

横田 なるほど。要は一人ひとりの考え方、考え方の問題なのでしょうね。

安井 僕はちよつと違う考えです。たしかに、現地ですつと知り合い同士だけ



でいるというのはどうかと思います。でも、ボランティアというのは、自分のためというより、困っている状況にある人々のために自分が何かをする、何かをしたい、というのが基本だと思っんです。自分がよりよい経験をするために何かをする、というのは別ではないかと思っんです。

横田 自分のためにという発想も、ボランティア活動をする過程でいろいろな

考え、思いが出てくるからこそ、だと思っいます。細かく分析すればいろいろな理由があるのでしようが、まず、「何かをしたい」という気持ちがあると思っいます。それが次第に、さまざまな体験や交流を通じて自分自身の中で考え方も深まっていって、これまでと違う考えにもなるのではないのでしょうか。それはそれで、やはりボランティア活動があったからこそと思っいますね。

生成 大学生って一般的には、時間がすごくあつて、バイトしていればまあお金もあり、気力も体力もある。だから、大学生こそボランティアに行くべき、と思っいます。ガクボに参加してわかつたんですが、リピーターがすごく多い。でも、それを周りの学生にわかつてもらうのが、実は、ものすごく難しいって感じています。「行きたい」っていう人はすごく多いんです。でも、実行している人はほんとに少ない……。

横田 そうかもしれないですね。体験すれば、だれもが「やりがいがある」「やつてよかつた」と思っるのでしようが、多くの学生は、そこまでの発想をしきれないんですね。

生成 はい、ギャップを感じます。個人的な事情もあると思っいますが、たとえばガクボに参加するのなら、お金もか



西尾雄志さん

かりませんし、日程的にもそんなに授業を犠牲にしなくてもいいようになっていっます。学生側にとつて融通が利くよう

西尾 みんなが親近感をもつてくれるのは、日程かと思っいます。日程を長くしてしまつと、授業にも影響が出てくるのでしようから、土曜日曜をはさんで、月・火だけ休めばいいように工夫はしています。でも、本当は長めの日程を組みたいんです。ちよつとでも長めの日程のほうが、いろいろな形で地元の人との交流、関係も深められる、とは思っっています。

■活きた体験が自分たちを変えた

横田 そうですね。あとは、夏休みのようなときを使ってどう行動するか、で



たからこそ、何回も現地へ行けたともいえません。その結果、さまざまな、貴重な体験をしてきたのかもしれない。そのさまざまな体験を経た今、一年前の自分と比べてみてどうですか、今の自分は？ どんな変化がありました？

宮本 大学で4年間、部活で野球をやるだけでした。でも、被災地で幼い子どもから90歳くらいまでのいろんな方と触れ合えることができました。いろいろな人に対して思いやりをもって接することができるようになったなあ、と感じています。

真継 慣れている環境から全く別の状況のところへ一歩踏み出すというのは、すごい勇気がいることだと思っんです。自分は海外を周ってばかりいましたが、日本の国内でもそういう行動をとることができたこと自体、自分は変わったと思っっています。

堂地 向き、不向きや欠点を知ることができました。自分を知ることができたという感じです。他人事と思っていた災害への考え方も変わりました。私は



堂地 優希さん

愛知県出身ですが、予想されている東海大地震も真摯に考えるようになりました。

生成 人のため

に行動するっていうのには、一歩踏み出す勇気が必要でした。でも、誰かのために自ら率先して動いていく大切さ、それは今回のボランティア活動がなければ学べなかったと思っっています。

安井 目の前にあるもの、事柄をただ単純にこなすだけだったやり方が変わっ



たように思います。こうしたら次はこうなる？ その先は？ というように物事をより深く広く考えられるようになった気がしています。

大松澤 現場を見て一人ひとりと出会って、その人が何を必要としているかを感じ取ることが大切だと、ずっと思っ

ていました。今回ボランティアをやって、改めて間違っっていないと強く実感しました。

横田 ありがとうございます。みなさんが被災地へ行ってさまざまに感じたことは、人間はお互いにその存在に思いを馳せなくてはいけないのだという、人間として当たり前のことの再認識だったかと思っいます。ひよっとしたら普段、忘れていたかもしれないことを、自ら行動することによって自覚する場合もあったでしょう。本当に素晴らしい体験をされたし、その体験は皆さんの将来の生き方につながっていくと思っいます。長時間の座談会でしたが、6人の方々、西尾さん、ありがとうございます。これで終わらせていただきます。

（司会・アイユ編集委員）





新しい年、「明けましておめでとうございます」と声に出してよいのか、気が引ける思いです。

東日本大震災の被災地で活動していると、「おめでとう」の言葉に心が痛みます。時計は止まってくれない。止めたら先に進まず、復興はできない。でも「人」は生ききっています。前をしっかりと向いて、生きていかななくてはいけないのです。

あれから17年を迎えた阪神・淡路大震災も、亡くなった人の言葉を伝承しながら前を向いて、歩んでいます。

歩みの中には、歴史があります。相手と向き合い、「希望」「人権」「尊重」「価値観」を重んじることの大切さ、「生ききる力」の大切さを、気付かせられ、学ぶことができました。

仮設住宅には、「生活弱者」や「情報弱者」、さらに「社会参加弱者」などさまざまな方がおられました。高齢者率も47・4%と日本の超高齢社会を先取りしていたその仮設住宅の24時間は、ここにこそ「人権」を植えつけてはならない状態でした。人間が住まう住宅を、なぜ、フェンスで囲むのか。なぜ、木一本が植えられないのか。棟番号は何のためにあるのか……。

棟番号は、人が安全・安心・快適に住まうためにあるはずです。その番号が、小さく、しかも普通では目に留まらない高さであれば、全くその意味が果たされません。

震災で生活の場が変化しても、「その人」は「その人」です。どんな状況下に置かれようと、その人の「価値観」「人権」が守られることが先決です。しかし、虚弱な人々ほど隅に追いやられていました。

われわれボランティアが果たした役割は、「その人」が安心して住まうことができるように、「その人」に合った工夫を実践することでした。その一つが棟番号の改善です。番号の存在の意味を明確にし、位置を目に留まるように目の高さまで下ろしたのです。

一人の命が救えました。自分の家がどこにあるかわからず歩いていた方が、棟番号と家の前の置き物で自分の家を探すことができたのです。同じような棟が無数に建ち並ぶ中で自分の家を見つけ出すことは、「生活弱者」の方にとって大変な作業です。

「人権」「尊重」の尊さは、身近にある足元から改善していくことにあるのではないのでしょうか。どんな人にとっても人間不在にならないような地域社会を構築していきたい、みんなの手で共創社会を築きたいものですね。差別のない地域社会を祈る日々です。

第2回

人権尊重は身近な足元から

黒田 裕子



くろだ・ゆうこさん
NPO法人阪神高齢者・障害者支援ネットワーク理事長。兵庫県宝塚市立病院の副総師長（看護師）だった1995（平成7）年、阪神・淡路大震災で被災、辞職して災害ボランティア活動に入り、現在に至る。

連携支援が不可欠

「犯罪被害者週間」国民のつどい

犯罪被害者週間の最終日にあたる昨年12月1日、内閣府の主催で「犯罪被害者週間」国民のつどい中央大会」が、東京・新宿区内で開かれた。基調講演とパネルディスカッションのほか、一般募集した犯罪被害者等に関する標語の表彰式や地元の特設学校生による合唱が披露された。



基調講演では、東京

都中野区議会議員の近藤さえ子さんが、「地域・自治体で必要な取組とは」議員、被害当事者の立場から」と題して講演した。近藤さんは、約7年前に夫を殺人事件で失っており、「事件後は、警察

や裁判、加害者家族への対応、勤務先や役所での煩雑な事務手続きなど、自分たちで何もかもしなければならなかった。家族を失った悲しみだけでなく、怒り、絶望のどん底さえも感じた」と振り返った。その後、自助グループとの出会いによって「希望を持つことができた」といい、現在では、議員の立場から「これまで社会から見捨てられてきた被害者（遺族）」の支援に取り組んでいる。

パネルディスカッションでは、「地域における犯罪被害者等支援の現状と今後」をテーマに、自治体担当者や支援団体代表らが意見を交わした。神奈川県では、2009（平成21）年に「かながわ犯罪被害者サポートステーション」が開設され、

県、県警、民間支援団体の三者が一つの場所に常駐し、情報を共有しながら「ワンストップ」で支援する体制を実現している。同県の犯罪被害者支援担当課長の平井和友さんは、「割合的に性犯罪被害者の支援が多いので、今後は、医療機関との連携を検討している」と話した。

また、相談窓口の設置や裁判に出席する場合の旅費、家事、保育などを援助している大阪府摂津市の犯罪被害者相談員、杉浦徹さんは、「自治体単独の支援には限度がある。警察や支援団体、他の自治体との連携に加え、地域の支援が不可欠」と訴えた。

さらに、15年前に高校生の息子を少年らに殺害された武るり子さんは、「遺族は、言われて嫌なこともあるが、何も言われないで放っておかれると心細い。一声かけていただくなど、関わってほしい」と述べた。

政府一丸で取り組みたい

政府主催の拉致問題シンポジウム

「拉致問題シンポジウム」すべての拉致被害者の救出に向けて」が、昨年12月11日、イイノホール（東京・千代田区）で開かれた。12月10日～16日の「北朝鮮人権侵害問題啓発週間」に合わせて、政府拉致問題対策本部と法務省が行ったもので、北朝鮮問題の専門家による講演、拉致被害者家族の訴えなどのほか、都内の中学校コーラス部による合唱などが行われた。

冒頭、山岡拉致問題担当大臣（当時）はあいさつで、「事件発生から30年以上経っているにもかかわらず、未だ解決できないことを申し訳なく思っている。すべての被害者の一刻も早い帰国に向けて、政府一丸となった取り組みを続けたい」と述べた。

講演では、聖学院大学総合研究所客員教授の康仁徳^{カンニトク}さんが「南北情勢から見た北朝鮮拉致問題」と題し、また、北朝鮮人権委員会前専務理事のチャック・ダウンズさんが「北朝鮮の拉致問題解決のための国際連携」をテーマに話し、それぞれ





稲積 謙次郎さん



吉原 淳治さん

「平成23年度えせ同和行為対策セミナー・福岡会場」が昨年12月14日、福岡市立中央市民センターで開かれた（経済産業省中小企業庁、九州経済産業局、財団法人人権教育啓発推進センター主催）。

えせ同和行為には断固、拒否を 福岡で対策セミナー

（政府は）頑固に交渉してほしい」、「それぞれの立場で何ができるか考え、問題を風化させてないでほしい」と訴えた。



「国際的な連携の必要性」を強調した。拉致被害者家族は、「高齢となった親が寝たきりで待ち続けている。なんとしても会わせてやりたい」と悲痛な思いを吐露し、「状況が進まないことはいらだちを感じている。」



— 当日上映したDVD —
「セクハラ・パワハラ・えせ同和行為 —あなたの職場は大丈夫?—」
(法務省・(財)人権教育啓発推進センター制作)
セクハラ (約15分)、パワハラ (約14分)、えせ同和行為 (約18分) の3部構成。
*当センター併設の人権ライブラリー (☎03-5777-1919) で貸し出しています。

— 当日配布したリーフレット (A3二つ折り) —
「みんなでNO!」—えせ同和行為には…きっぱりと!恐れず、慌てず、うろたえず!!—
(経済産業省中小企業庁・(財)人権教育啓発推進センター制作)
*当センター (☎03-5777-1918) で無料で配布しています。



今年度、大阪、東京に続く3会場目で、約250人が参加、啓発DVDの上映後、2人の講師による講演が行われた。
ジャーナリストで元西日本新聞編集局長の稲積謙次郎さんは、「正体見たり枯れ尾花」えせ同和行為克服のカギは何か」と題して講演、自身の新聞記者時代の経験を中心に話した。その上で、「えせ同和行為は、同和問題の正しい理解を妨げ、部落解放に逆行する行為。えせ同和行為を撃退することとは、組織の社会的責任を果たすことであること」

「ミルカ・ミルカ」は、ペルーの先住民族の言葉。ケチュア語で「さまざまな色やもの」の意味です。人権に関するさまざまな情報を幅広く紹介していきます。

「震災と人権」私たちに出来ること」をテーマにした人権シンポジウムが、1月22日、大阪市北区のザ・フェニックスホールで開かれた（法務省・財団法人人権教育啓発推進センター主催）。被災地の子どもたちが作った紙芝居の実演も行われるとあってか、近畿圏だけでなく、全国各地から151人が参加、被災地での支援活動の報告や一人ひとりにできることなどが議論された。（シンポジウム内容の要約は本誌3月号に掲載する予定です）

「震災と人権」をテーマに シンポジウムを大阪で開催

を認識してほしい」と強調した。
また、弁護士吉原淳治さんは、「えせ同和行為の具体的事例と対応策」をテーマに講演、具体的な事例を挙げながら、法務省人権擁護局の「えせ同和行為対応の手引」(*)を基にそれぞれの対応策について説明した。
*「えせ同和行為対応の手引」は法務省のホームページ (<http://www.moj.go.jp/JINKEN/jinken86.html>) からダウンロードできます。

グローバル・アピール2012

～ハンセン病に対する スティグマ（社会的烙印）と 差別をなくすために～

ハンセン病に関する迷信や誤解は数多く存在します。医療専門家として、私たちに、まずもって、このような誤った認識を正す責任があると考えます。

ハンセン病は感染力の弱い病気です。日常的な接触によって感染することはありません。病原菌を殺し、他の人への感染を防ぐことができる多剤併用療法によって、病気は完全に治ります。

早期の診断と適切な治療がなされれば、ハンセン病に伴って起こる障害は防ぐことができます。したがって、この病気にかかった人を隔離する医学的根拠は存在しません。

しかし、ハンセン病にかかった人々は、病気が治った後にも、社会的差別を受け続けています。家族の全員が疎外され、悲惨な結果に至る場合もあります。

薬は病気を治せます。しかし、それに付随するスティグマ（社会的烙印）をなくすためには、幅広く社会的な意識を高めることが不可欠です。

スティグマがなければ、さらに多くの人々が積極的に治療を受けにくるでしょう。新たな患者もより早期に発見され、結果的に障害が残る症例も減ります。世界中でハンセン病の問題を軽減することができるのです。

私たち（医療専門家）は、ハンセン病患者・回復者がどの病院においても治療を受ける権利を有することを支持します。

私たちは、ハンセン病患者・回復者、そしてその家族に対する差別を撤廃することをここに宣言します。

私たちは、ハンセン病患者・回復者が、地域社会の一員として、すべての人と同等の機会と人権を享受し、尊厳ある人生を送る権利を擁護します。

グローバル・アピール

ハンセン病患者・回復者に対する差別の撤廃を世界に訴えるアピール文書。WHO（世界保健機関）ハンセン病制圧特別大使で、日本政府ハンセン病人権啓発大使でもある公益財団法人日本財団の笹川陽平会長の主導によるもので、「世界ハンセン病デー」（毎年1月の最終日曜日）に合わせて発表されている。今年で7回目。

毎年、各界に呼びかけ、これまでにノーベル平和賞受賞者や宗教指導者、世界各国の企業の代表者らとともに発表。今年は、各国の医師を賛同者にブラジルのサンパウロで発表された。



第7回 水滴

～水、いたるところに、
しかし、飲める水は一滴もない～
（「コンパシート」P.144より）



このコーナーでは、子どもを対象とする人権教育総合マニュアル「コンパシート」（A4判、372ページ）誌に掲載されているアクティビティ（実践的な学習活動）を紹介しています（抜粋）。同書は、ヨーロッパ評議会が企画（原本は英語版）、福田弘さん（文部科学省「人権教育の指導方法等に関する調査研究会議」座長）が翻訳、当センターが発行しています。（購入ご希望の方は当センターまでお問い合わせください）

概要

水を無駄にしないためには、どのような使い方ができるか決定します。環境にとって最も重要な資源の一つである水を節約する上で個人の行動が持つ重要性についてディスカッションします。

目的

- ・日常生活における天然資源の持続可能な利用についての意識を高めること
- ・子どもたちが自分達の権利を意識するようになるのを援助すること
- ・資源の持続可能な利用と水の節約のための個人の行動を奨励すること

指示（進め方）

- ① 次のような質問をして、水が大切である理由をできるだけ多く子どもたちに考えてもらいます。
 - ・もし水がなかったら、地球上の生命はどうなるとおもいますか？
- ② 毎日（例えば、料理、入浴またはシャワー、トイレの水洗、衣服の洗濯などのために）どのように水を使っているか、模造紙か黒板にリストアップします。
- ③ 子どもにそれぞれコップを与えて、水を注ぎます。それが、子どもたちがそれぞれ今日1日に使える水だと説明し、自分達は1日にどのくらいの水を使っているか推測してもらいます。
- ④ 水を節約するために自分達の日常の行動を少しでも変えるためには、どうすればよいのか、子どもたちに考えてもらいます。各自に自分

の決定したことについて発表させ、それによって節約できると思う水をスプーンで何杯という具合に量って、グループ全体用のボールに入れてもらいます。



- ⑤ すべての子どもが発言し終えたら、子どもたちが節約しようと決めたボールの水はグループ共有のものである、と説明します。毎日少しの水を節約し続けさえすれば、ボールには水が満ちているだろうと説明します。
- ⑥ 自分達が持っている共有水をどのように使うつもりなのか、グループで決定してもらいます。

報告と評価

- 1 次のような質問をして、アクティビティの報告をしてもらいます。
 - ・あなたの水の使い道について、あらためて気づいたことがありましたか？ 家族の水の使い道についてはどうですか？ 公共の場所で使われる水（例えば、学校、病院、公共建築物、公園など）についてはどうですか？
 - ・どんなことに使う水を節約すると、あなたの日常生活を維持するのが困難になるでしょうか？
 - ・「共有水」の使い道を決めるのは難しかったですか？ 共有水についてのグループの決定に満足していますか？
- 2 水の保全について、子どもたちが一般化できるように指導します。
 - ・なぜ水を節約することが大切なのか？
 - ・私たちのコミュニティが使っている水は、どこから、どのようにして私たちのところにまで来るのでしょうか？
- 3 次のような質問をして、アクティビティを人権に関連づけます。
 - ・水は生活と生存に不可欠なものです。生活と生存にとって大切な役割を果たす他の環境資源にはどんなものがありますか？
 - ・すべての人々が、清潔な水や清浄な空気など質のよい環境資源を利用していますか？そして、誰もがそうなれるようにするために、子どもたちにもできることがあるのでしょうか？

「コンパシート」翻訳・監修者
福田弘さんからの
ワンポイントアドバイス



実際の「水」に触れながら環境権と人権全般について考え、環境保全のための知見と実践力を培う大変有効なアクティビティです。「報告と評価」の箇所を十分研究して実践してください。理科、家庭科、総合的学習の時間等と連携させて活用すれば、いっそう大きな成果が期待されるでしょう。

読み語りを行いました

志茂田景樹隊長のよい子に読み聞かせ隊

「つながる心 みんな輝け、いのちきらきら」

当センター併設の人権ライブラリーで、昨年12月22日、志茂田景樹さんによる読み語りが行われた。志茂田さんは、親子連れや自治体関係者など約30人を前に、自作の絵本の1ページ、1ページをプロジェクターに大きく映しながら物語を読み進めた。また、10年前に読み語りで訪れた岩手県大船渡市に、震災後再び訪れ、当時の子どもたちと再会できたことなどについても紹介した。



読んだ絵本

「まんねんくじら」
「ぼんちとちりん」
「こうしのぼうけん」



志茂田さんの温かい語りかけ、読み聞かせに、心が温かくなりました。

明るい絵、勢いのある読み聞かせに子どもも大変喜んでいました。



参加者の声

大型モニターを使うなど、工夫されていると思いました。

子どもたちに向き合う優しさを感じました。

絵本は、人権ライブラリー（当センター併設）でも貸し出ししています。
ご利用ください。TEL 03-5777-1919 / FAX 03-5777-1954

第3回

読み語り「大人のための絵本セラピー 職場内コミュニケーション編」

2月29日(水) 18:30~20:00

会場 人権ライブラリー（当センター併設）

岡田達信さん（絵本セラピスト協会代表・絵本のソムリエ）

読む本：「わたしとなかよし」「どんなかんじかなあ」「まめうしくんとこんには」

参加無料



第3回は職場内コミュニケーションがテーマ。ソムリエ選りすぐりの絵本を通して、参加者皆さんで感じたことや、考えたことをシェアしていきます。絵本を通して、心の声に耳を傾けてみませんか？（大人の方のみの参加とさせていただきます。お子さま連れの方はご相談ください）

【参加申込方法】次の各項目をご記入の上、EメールかFAXで。①「第3回読み語り 参加希望」②所属 ③名前（参加する方全員の名前を記入してください）④電話番号 ⑤FAX番号 ⑥Eメールアドレス

【問い合わせ先】TEL 03-5777-1919 / FAX 03-5777-1954 / Eメール library@jinken.or.jp



会員募集のご案内

当センターでは、会員制度を設け、センターの設立趣旨、活動内容等にご賛同いただける方々からのご支援を募っています。多種多様の会員特典をご用意しております。ぜひご検討ください。

【会員特典】

1. 当センターで販売している冊子やビデオなどを通常価格の**2割引**・**送料無料**（一部資料除く）でお求めいただけます。
2. 当センターが運営する人権ライブラリーで無料貸し出ししている図書、映像資料を**送料無料**でご利用になれます。
3. 機関誌「アイユ」を**毎月無料**でお送りします。
4. 当センターで制作した新作の啓発冊子などを各1部、**無料**でお送りします。
5. 人権に関する研修の企画・運営、冊子やポスターなどの制作を当センターに委託される場合や講演会の講師派遣をご希望の場合、**会員優待価格**が適用されます。
6. 「コンパシット・セミナー」、「コンパス・セミナー」、「聴導犬デモンストレーション&講演会」などを当センターと共催で、ご希望の地域で実施できます。**講師に係る経費は、当センターで負担**します。

<2011（平成23）年度は、下記の会員自治体と実施しました>

◆コンパシット・セミナー
共催団体：大分県



◆聴導犬デモンストレーション&講演会
共催団体：栃木県、和歌山県、北九州市、広島県



7. 「人権啓発フェスティバル」など会員の主催事業を、ご相談の上、当センターが**後援**します。
8. **会員特別セミナー**など、会員だけを対象とした事業にご参加いただけます。
9. 「**人権啓発活動シンボルマーク**」（商標登録済み）を会員が発行・制作する印刷物などに掲載できます。
10. 会員のホームページを、当センターホームページに**リンク**できます。



人権啓発活動シンボルマーク

【年会費】

地方公共団体会員	※
企業会員	10万円
団体会員	5万円
個人会員	1万円

※人口により年会費を設定しております。

*上記の特典は、会員自治体の出先機関、会員企業の関連会社、会員団体の傘下団体に適用されるものと、適用されないものが含まれています。くわしくは、下記担当までお問い合わせください。

【お問い合わせ】

総務課 TEL 03-5777-1914 / FAX 03-5777-1803

第31回 全国中学生人権作文コンテスト

〔主催〕法務省人権擁護局
〔主〕全国人権擁護委員連合会

法務大臣賞

障がい者の私にできること

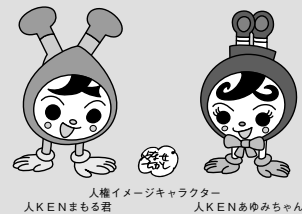
岐阜県・岐阜県立

岐阜聾学校 中学部

三年

河合

茉奈



人権イメージキャラクター
人KENまもる君 人KENあゆみちゃん

私は、生まれつき聴覚に障がいを持っています。大きい音は聞こえますが、声が濁って聞こえてしまうため、男の人の声と女の人の声の区別もつきにくかったり、突然音がしても何の音が分からなかったり、うしろから話されると、聞きとれないということが多いです。

私は、小学校まで普通学校に通っていました。友達とは手話などを使わず、読話（話し手の唇の動きや顔の表情から話の内容を読み取ること。）でコミュニケーションをとっていました。そのため、何を言われているか分からないことも多く、聞き返せなかった私は、分かったふりをしてしまいました。その結果、トラブルになってしまいうことがよくありました。その時の私はこの学校に聞こえない人が一人しかいなかったもので、自分が聞こえないことを認めることが出来なかったのだと思います。だ

から、聞こえる人と同じようにしたかったのだと思います。しかし、そんなことを続けていても、いい方向には行きませんでした。だんだん自分に自信が持てなくなってしまうのです。だんだん、そんな自分が嫌になり、自分を変えたいと思い、中学校から聾学校に行くことを決めました。聾学校に入って、まず私が衝撃を受けたことは、みんな自分の思いを伝えようとする気持ちが強く、そのために、手話が分からない健聴者に対して身ぶり手ぶりで伝えたり、それが伝わらないと分かると、筆談で伝えていたことでした。また、何気ない会話でも積極的に話しかけ、健聴者の方も理解してくれようと努力している姿を見たときは、とても感動しました。以前の私は、健聴者とは用事があるときしか、関わりうとしなかったのです。それどころか、関わることさえ避けていました。私は聾学校の人たちを見るとき、健聴者に差別してほしくないと思っていたけれど、実

は、私のほうが、障がいを持っていて自分と向きあっている自分と向きあっていたことに気づかされたのです。それからの私は、こんなことではダメだと思い、少しずつ自分を変えるように努力していききました。

ある日、私は電車の切符を買おうと思い、窓口に向かいました。駅員さんとの会話が分からず、恥ずかしかったけれど「聞こえないので筆談してください。」とお願いました。すると、駅員さんはニコッと笑って、すぐメモ帳とボールペンを取りだし、筆談してくれました。そのとき、私は勇気を出して言っ、よかったと思いました。今までの私なら、その一言が言えず、切符を買うことができなかったでしょう。こういった経験をたくさんしていく中で、私は少しずつだけでも、変わってゆくことが出来ました。そして障がいを隠してゆくことは何も得られないということが分かりました。それよりも、包み隠さずに、ありのままの自分を知ってもらったほうが生活していきやすいのではないかと思いました。また、手をさしのべてもらうのを待つばかりでなく、自分からお願することも大切だと思います。そうすれば、優しく手をさしのべてくださる人がたくさんいるのです。

私は今、聞こえないから嫌だとか、恥ずかしいとかは思わなくなってきました。そのままの自分でもいいと、前向きに考えられるようになり、自分が好きになりました。聞こえないことは不便だと思ってもたくさんあるけど、聞こえないことを他で補うことが出来ることもあるし、出来ないときは仕方がない

これが私なんだと吹っ切れることも出来るようになりました。

また、障がい者だからといって、誰かを助けられないというわけではないということも経験しました。この前、電車を降りようとしたときに、電車とホームまでに段差が少しあり、赤ちゃんのをせたベビーカーがなかなか降ろせなくて困っている女の人を見かけました。私がベビーカーの前の手すりを持ち、おろしたら、その女の人はニコリと笑い、「ありがとうございました。」と言ってくれました。その言葉を聞いて、私はとてもうれしい気持ちになりました。いつも助けられている、と思っていた私でも、他の人を助けることができるんだと感じました。

私の理想は、障がいがある、ないにかかわらず、すべての人が支え合いながら生きていく社会です。障がい者だからといって助けてもらうばかりではなく、障がい者の方も出来る範囲で人を助けられるようになればいいと思います。それが互いに支えあうということだと思います。そして私は、これから健聴者の方に聞こえない人のことをもっと理解してもらうために色々なところに参加して、聞こえないとはどういうことを伝え、難聴者と健聴者の架け橋になるよう、努力したいです。

誰もが住みやすい社会になるために…。

文部科学大臣奨励賞

温かさを分け合って

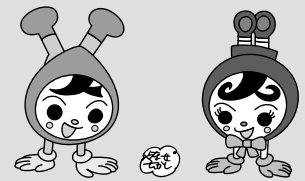
「みっちー」。それが、新しい学校での僕のニックネームとなった。四か月足らずの生活だったが、僕に色々なことを教えてくれた大切な日々だった。

あの三月十一日の大震災は、僕達の生活を一変させた。南相馬市は原発の影響で屋内退避となり、生活面や健康面など様々なことを心配した両親は、祖父母と僕達兄弟を連れて埼玉の伯父の家に一時的に避難することにした。伯父の家に着いても、両親は仕事があるため、早々に南相馬市に帰り、祖父母と僕達兄弟だけが埼玉に残ることになった。いつまで続くかわからない避難生活、両親の不在、そしてあまりにも急な転校の話に僕はとまどい、とても不安だった。いつもは強気な小学生の弟も、心細そうに僕にくつついていることが増えた。初めて過ごす伯父の家、初めての町、慣れないことばかりの生活が始まった。そして、転校初日。これからの学生生活がどうなるのか不安

福島県・南相馬市立

原町第二中学校 三年

宮原 みやはら 理為智 だいち



人権イメージキャラクター
人KENまる君 人KENあゆみちゃん

に思っていた僕にとって、「みっちー」というニックネームは思いがけないものだった。初めてなのに、親しく声をかけ、色々教えてくれる級友に僕はとても安心した。埼玉の学校でもがんばろう、という気持ちがいってきた。

そんなある日、僕は新聞を見て驚いた。福島から来た小学生が、転校先で「放射能がうつる」と言われたというのだ。さらに、病院で診察を断られる、レストランの入店を拒否される、スクリーニング検査を受けた証明がないと入れない施設がある、いわきナンバーの車がパンクさせられるなど、放射能による差別があちこちで報道されるようになった。同じ福島県内ですら、浜通りから来た人に対して「放射能が来た」と言ったという話を聞いた時は、耳を疑った。

どうして、こんな差別をする人達がいるのだろうか。放射能差別とでもいえるべきニュースを見るたびに、僕は怒りと共にとても悲しい気持ちになった。それを両親に話すと、「四月に入っ

てからは、食料やガソリンなどを積んだトラックが仙台まではよく来るようになったよ。でも、『放射性物質で汚染されるから、南相馬市まで運びたくない』と言っている人もいるね。何とかお願いして相馬市まで運んでくれても、そこから先は危険だから行きたくないという人は、やっぱりいるんだよ。目に見えないから心配なんだね。」と話してくれた。食料がなければ店も開かず、食べるものが手に入らない。軽油がなければ津波で転がっているがれきをどかさ重機も使えない。地震や津波の被害をまぬがれ、町を何とかしようと思っっている人達はたくさんいたが、生活することが難しくなり町を離れる人は後をたたなかつたそうだ。また、警戒区域では行方不明の家族すら探せない、遺体が見つかって放射線物質などの関係で家族ですらさわることもできなかつたという。それがどれほどつらいことか、僕には想像もつかない。八月が終わろうとする今も、田んぼには漁船が転がり、がれきは集められたものの、あちこちに積み上げられたままだ。当たり前と思っていた景色も生活も、すっかり変わってしまった。

僕は、これまで人権についてあまり考えたことがなかつた。しかし、震災後の生活を振り返って、当たり前と思っていた生活がどれほど大切なものなのか、僕達を守ってくれていたものがどれほどたくさんあったのかに気づかされた。家族と一緒に暮らすこと。学校に行って勉強したり、校庭で思い切り体を動かしたりすること。公園の芝生の上に寝転がること。原発の事故で差別されないこと。震災という出来事が、これほどたくさ

んの「人権」に関わってくるようになるとは思ひもしなかつた。千年に一度の津波。起こることを想定していなかつた原発問題。自然の驚異や科学技術の進歩によって、これから先も色々なことが起こるだろう。困っている人、大変な思いをする人がたくさん出る中で、全ての人権を守るのは、とても難しいことが今回の震災でわかつた。しかし、だからこそ、放射線差別や風評被害などを傷つけるような問題は起こってほしくないと思う。震災以降差別に関する残念なニュースは多かつたが、それ以上に心が温かくなる話の方が多かつた。大変な時だからこそ、助け合うことが大切であることを僕はこの震災を通して学んだ。たくさんの人に支えられて、僕は生きている。そのことを忘れなければ、人を傷つける言葉や相手を考えない言動をとることはないと思う。

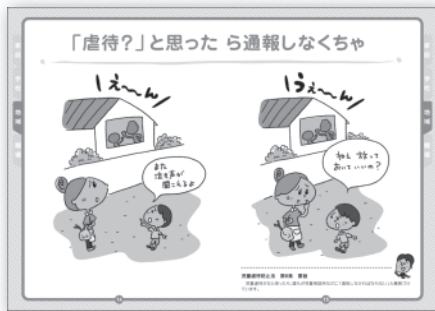
「みっちー」と温かく迎えてくれた埼玉の友人達、不安をなくすために温かい言葉をかけてくれた先生方を僕は絶対忘れたい。そして、大変な中でも普通の生活に戻そうと工夫してきた原町二中のみんなや先生方の強さも。僕もその温かさを他の人に分けられる人間になりたいし、どんなことがあっても強く生きていく心を持てる人になろうと強く思う。

(財)人権教育啓発推進センター パネル・グッズ・映像資料のご案内

■パネル

- ①「あっそうか！ 人権」
- ②「あっそうか！ 人権2」

ご好評をいただいている「あっそうか！ 人権」シリーズをB2サイズのパネルにしました。身の回りのふとした出来事のなかで、「あっ、これも人権だったのか」と気づききっかけとなる場面をイラストでわかりやすく説明しています。イベント等での展示にご活用ください。



B2横／13枚／カラー／ラミネート加工／収納ケース付き
 一般：223,500円 (税込/送料別)
 会員：178,800円 (税込/送料無料)

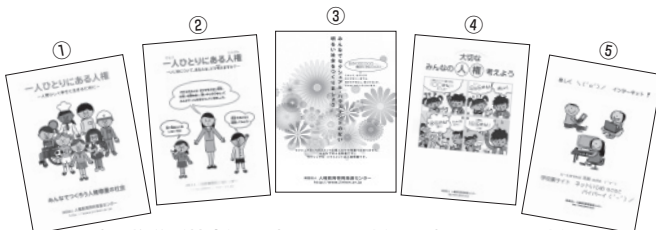
■人権啓発映像作品

同和問題、セクシュアル・ハラスメント、パワー・ハラスメント、メンタルヘルス、デートDV、アカデミック・ハラスメント等をテーマにしたDVD・VHSがあります。価格、時間等はホームページをご覧ください。



■クリアファイル

団体名など任意のクレジットを印刷することができます。人権啓発のイベントや研修会、職場や学校などで書類をはさんで配付するのに最適です！



- ①人権尊重社会編 ②いじめ防止編 ③セクハラ防止編
- ④4コマ漫画編 ⑤インターネット編

通常版 (当センター名入り)
 価格 一般：450円／5枚セット (税込・送料別)
 会員：360円／5枚セット (税込・送料別)
 *「名入れ」をした場合の価格は、販売担当までお問い合わせください。

■社会福祉施設で作ったグッズ 「どうぶつマグネット」・「メモトリオ」

現在、日本には8,000を超える社会就労センター等があり、これらの施設では障がい者の自立を支援するために、さまざまな事業に取り組んでいます。当センターではNPO法人日本セルフセンターと協力して、これらの施設で作られたグッズの頒布をしています。



「どうぶつマグネット」100個セット
 一般：21,000円 (税込/送料別)
 会員：21,000円 (税込/送料別)



「メモトリオ」100個セット
 一般：10,000円 (税込・送料別)
 会員：10,000円 (税込・送料別)

ご注文方法 FAXまたはEメールにて承ります。

FAX 03-5777-1803 Eメール sales@jinken.or.jp
 次の各項目を明記のうえ、販売担当までお送りください。

- ご希望の資料名・数
- お名前・所属先名 (一般または会員)
- 送り先の郵便番号・所在地・電話番号
- ご希望のお支払い方法 (銀行振込または郵便振替)
- 到着希望日
- 購入区分 (個人購入または公用購入)
- 公用での購入等で請求書のあて名のご指定がある場合は、その旨を明記してください。

*商品は、在庫僅少の場合を除き、10日以内に発送いたします。

詳細は、販売担当(☎03-5777-1916)までお問い合わせください。

ホームページ
<http://www.jinken.or.jp/item>

人権センター 販売

放射線被ばくについての 風評被害に関する緊急メッセージ

平成23年4月21日
法務省人権擁護局

新聞報道等によりますと、原発事故のあった福島県からの避難者がホテルで宿泊を拒否されたり、ガソリンの給油を拒否されるといった事案のほか、小学生が避難先の小学校でいじめられるなどの事案があったとされております。

放射能の影響を心配するあまりなのかもしれませんが、根拠のない思い込みや偏見で差別することは人権侵害につながります。

震災に遭った人が、避難先で差別を受けたら、どんな気持ちになるでしょうか。

相手の気持ちを考え、やさしさを忘れず、みんなでこの困難を乗り越えていきましょう。



人権イメージキャラクター
人KENまもる君 人KENあゆみちゃん

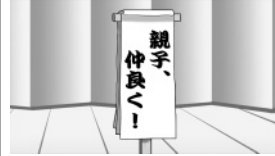
法務省ホームページ http://www.moj.go.jp/JINKEN/jinken04_00008.html

人権啓発デジタルコンテンツ

「YouTube 法務省チャンネル」で放映中

法務省の委託を受け、当センターが制作した人権啓発デジタルコンテンツ落語篇です。30秒のスポット映像が6種類あります。1月号から1つずつ紹介しています。

落語篇 2「親子、仲良く！」



ドンドン！（太鼓の音）



【噺家】
えー、最近のお話からひとつ。



夜中、近所のマンションから
子どもの泣き声が
聞こえてきたんです。



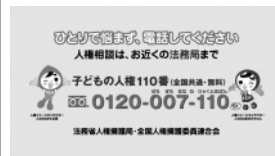
どうやら、お母さんが
食事をあげてへん…。
服も着替えさせてへん…。
育児放棄ですわ。



子どもは宝でっせ。
まわりの大人たちも、
もっと関心を持って
大事にせなあかん。



やっぱり、
こうやないとあきませんよね。



ひとりで悩まず、電話してください。
フリーダイヤル
ぞろぞろなのひやくとばん
0120-007-110まで。

<http://www.youtube.com/MOJchannel>

法務省チャンネル

検索

青森
●アピオ・シアター「その街のこども」▽3月11日(日)10時～12時▽会場：アピオあおもり▽主催：青森県男女共同参画センター▽連絡先：青森県男女共同参画センター情報ライブラリー ☎017(732)1024 ■要申込 *託児あり
●ホツとルーム「女性対象」被災地の女性たちが気軽に集まれる「しゃべり場」▽3月7日(水)・21日(水)10時30分～14時30分▽会場：八戸市白銀公民館▽主催：連絡先：青森県男女共同参画センター ☎017(732)1085 *託児あり

3月・4月の人権啓発行事予定
都道府県、政令市、法務局、国連関連機関等から寄せられた行事予定、および当センターの行事予定です。くわしくは各連絡先まで。*手話通訳、要約筆記、託児サービスは事前に予約が必要な場合があります。*申込締切が過ぎたものも掲載しています。
*敬称略【行事予定は、当センターのホームページ (<http://www.jinken.or.jp/>) の「全国の人権啓発行事」コーナーにも掲載しています】

法務省・全国人権擁護委員連合会

全国共通 人権相談ダイヤル

差別 差別 差別
雇用・虐待
セクハラ・パワハラ
いじめ・体罰
名誉毀損・プライバシー侵害
など

ひとりで悩まず相談を
全国共通 人権相談ダイヤル
0570-003-110
法務省・全国人権擁護委員連合会

受付時間

午前8時30分～
平日 午後5時15分

電話は、最寄りの法務局・地方法務局につながります。

秘密は守ります。法務局職員、人権擁護委員が相談に応じます。

PHS・一部のIP電話等からは、ご利用できない場合があります。

テムズの 岸辺から

英国の人種差別殺人事件

約20年を経て有罪判決

英国で、人種差別の代名詞となっている「ローレンス事件」が一つの節目を迎えた。

事件はほぼ20年前、発生した。ジャマイカ系移民で黒人のスティーブン・ローレンスさん（18）が1993年4月、友人と自宅近くでバスを待っていたところ数人の白人の若者に襲撃され、ナイフで刺殺された。生き残った友人は、近所を「縄張り」とする「愚連隊」5人の関与を証言した。5人は襲撃の際、「黒んぼが何してるんだ」などと人種差別的な発言を繰り返したという。

それほど複雑な殺人事件とは思えないのに警察は容疑者を特定できなかった。スティーブンさんの母、ドリーンさん（59）は、息子を故郷ジャマイカに葬り英国に戻ったところ、だれも逮捕されていないことに驚がくしたという。

そこからドリーンさんの闘いが始まる。南ア

フリカのネルソン・マンデラ元大統領や米国の黒人活動家ジェシー・ジャクソン師を含む海外の著名人の支援も受けながら、英政府と警察に真相解明を求め続けた。

5人のうち2人が逮捕されたのは、ようやく一昨年になってから。この間、ドリーンさんの働きかけにより実現した警察の内部調査では「警察内に構造的な人種差別がはびこり、このため捜査に不手際が生じた」との結論も出た。

裁判所は今年1月、容疑者2人に有罪判決を言い渡したが、事件当時、16歳と17歳だったことが勘案され、無期ではなく14年と15年の懲役とした。

残る3人は依然、何の裁きも受けていない。事件を契機に、人種問題への意識啓発などを行うようになった警察は、今後とも3人に対する捜査を継続すると決意表明した。

判決後、ドリーンさんは記者団に目にうっすらと涙を浮かべながら語った。「もし警察がきちんと捜査をしていれば、私は18年間を息子を殺した人間に裁きをもたらすため闘うのではなく、息子の死を悼むことに費やせたのに」。

（ロンドン駐在ジャーナリスト 大内 佐紀）

大阪

●子どものいない人生のこと話し合ってみませんか「アーマが自分の問題と感ずる女性対象」ファシリテーター・助産師▽3月3日(土)・10日(土)・17日(土)10時〜12時▽会場「ドーンセンター」(大阪市)▽主催「府▽連絡先」(財)大阪府男女共同参画推進財団 ☎06(6910)8588 ■要申込

京都

●企業向け人権啓発講座「京都市内に事業所を持つ企業対象」第10回「東日本大震災からもうすぐ1年 改めて考えよう。生と死を見つめ、今を大切に生きるために」(講師)カール・ベッカー(京都大学)こころの未来研究所教授▽3月7日(水)13時30分〜15時30分▽会場「京都大学百周年時計台記念館百周年記念ホール」■要申込(締切29)
●平成23年度 柳原銀行記念資料館企画展「いまに生きるアイヌ民族」▽3月14日(水)〜4月20日(金)10時〜16時30分▽会場「京都市人権資料展示施設柳原銀行記念資料館」▽主催「京都市、NPO法人崇仁まちづくりの会、柳原銀行記念資料館運営協議会」▽連絡先「京都市人権文化推進課」☎075(366)0322

滋賀

●さんかく実践講座「誰もが主体のまちづくりにむけて」教材「クロスワード」の活用を通して(講師)吉川肇子・慶應義塾大学教授▽3月16日(金)13時30分〜16時▽会場・連絡先「滋賀県立男女共同参画センター」(近江八幡市) ☎0748(37)3751 ■要申込(締切39)

岩手

●子どもたちの3・11ユニセフ東日本大震災報告写真展 ▽3月1日(木)〜5日(月)10時〜17時▽会場「イオンモール盛岡2階イオンホール」▽主催・連絡先「岩手県ユニセフ協会」☎019(687)4460

🌀🌀🌀🌀🌀🌀🌀🌀🌀🌀

カレンダー【3月】

3日○全国水平社の創立
1922（大正11）年のこの日に創立。「人の世に熱あれ、人間に光あれ」の言葉で結ばれる水平社宣言が採択された。

8日○国際女性デー
1975（昭和50）年の「国際女性年」に国連が制定。女性に対する差別撤廃と、平等な社会参加に向けた取り組みを各国に求めている。

21日○国際人種差別撤廃デー
1966（昭和41）年に国連が制定。1960（昭和35）年に南アフリカでアパルトヘイト（人種隔離政策）に反対するデモ行進に警官隊が発砲し、死者を出した事件が起きた日に由来している。21～27日は「人種差別主義と闘う人々との連帯週間」。

3月○自殺対策強化月間
内閣府が2010（平成22）年に策定した「いのちを守る自殺対策緊急プラン」で定められた。「生きる支援」を広く展開することを呼びかけている。

●「女性のチャレンジと社会活動推進セミナー」
「女性のチカラがこれからの世の中を変える！社会を変え、世界の子ども達を暴力から救いたい！」
【講師】越地真一郎・熊本日日新聞社専門委員、村田早耶香・NPO法人かものはしプロジェクト共同代表
▽3月6日(火)13時30分～16時30分▽会場：テトリアくまもと（熊本市）▽主催：県▽連絡先：くまもと県民交流館男女共同参画センター ☎096(355) 1187 ■要申込（締切済）*手話通訳・託児あり

●故郷のこと、話ませんか「東北地方から関西に避難されてきた女性対象」カウンセラーも参加▽3月3日(土)10時～12時▽会場：ドーンセンター（大阪大市）▽主催：連絡先：（財）大阪府男女共同参画推進財団 ☎06(6910) 8588 ■要申込 *託児あり

●奈良県女性センター講座修了生グループ「プルーブル飛翔」企画講座 「『ラポール』で豊かな人生を」
私もあなたも大切な人間！▽3月9日(金)13時30分～15時30分▽会場：主催：連絡先：奈良県女性センター ☎0742(27) 2300 ■要申込（締切済）*託児あり

●企画展示 「人権啓発ポスター・新聞広告展」平成23年度人権啓発資料法務大臣表彰より▽2月27日(月)～3月30日(金)9時30分～17時30分(土・日・祝日休館) (2月27日(月)～3月12日(月)は北海道・東北・関東甲信越・北陸・東海・近畿(三重県、滋賀県、京都府)の自治体の作品、3月16日(金)～3月30日(金)は近畿(大阪府、兵庫県、奈良県、和歌山県・中国・四国・九州の自治体の作品)▽会場：主催：連絡先：人権ライブラリー ☎03(5777) 1919

●定期上映会 「ふるさとをください」▽3月21日(水)14時～15時40分▽会場：主催：連絡先：人権ライブラリー ☎03(5777) 1919

国連人権高等弁務官事務所 (OHCHR) のニュースリリースを 当センターのホームページでご覧いただけます

国連人権高等弁務官事務所（OHCHR）のニュースリリースを当センターが独自に抄訳し、ホームページ（<http://www.jinken.or.jp/inews/>）に掲載しています。ご活用ください。（掲載期間は、約3か月間です）

国際人権ニュース
OHCHRのニュース抄訳

ココをクリック

＜掲載内容の一例＞

- ・子どもの個人通報に関する選択議定書を採択
- ・女性に対する暴力撲滅のための男性に向けた活動
- ・子どもの権利委員会第59会期開幕
- ・国連とアフリカ人権委員会が協力強化を討議
- ・社会権規約委員会第47会期閉幕

* 転載、引用は、(財)人権教育啓発推進センターの独自の抄訳であることを明記すれば自由に行えます。

無料の貸し会議室です。人権教育関係の打ち合わせ、サークル等にご利用ください。お問い合わせは人権ライブラリーまで。TEL03-5777-1919 / Eメール library@jinken.or.jp

人権ライブラリー
多目的スペース

1月のご利用
全国隣保館連絡協議会 湘南DVサポートセンター「子どもの自殺遺族自助グループ」(ゆくりか)GCC-JNHコミュニケーション分科会、特定非営利活動法人ジャパンハイツトニイ化学株式会社など計11団体

「アイユ」についてのご意見、ご感想がございましたら、FAX(03-5777-1803)でお寄せください。

(財)人権教育啓発推進センターは、次代を担う青少年等に対する同和問題など人権に関する総合的な教育・啓発及び広報を行うとともに、人権に関する教育・啓発について調査、研究、情報収集・提供及び国際的連携を図り、あわせて、人権に関する相談を実施し、基本的な人権の擁護に資することを目的としています。

参加者募集中 芝大門人権講座

■育つ人・育てる人の心 ~再犯防止の鍵は、働いて社会とつながること~

講師 中井 政嗣さん(千房株式会社代表取締役)
*同社は刑を終えて出所した人を雇用しています。

日時 2012(平成24)年2月21日(火) 18:30~20:30

会場 人権ライブラリー・多目的スペース(当センター併設)

■同性愛者への理解は進んだのか? ~同性愛者のための電話相談の現場から~

講師 野崎 真治さん(特定非営利活動法人 動くゲイとレスビアンの会 副代表理事)

日時 2012(平成24)年3月7日(水) 18:30~20:30

会場 人権ライブラリー・多目的スペース(当センター併設)

■春の特別企画 国立ハンセン病資料館見学と『語り部』のお話

日時 2012(平成24)年4月6日(金) 13:30~16:00

会場 国立ハンセン病資料館

内容 ①ビデオ視聴(40分) ②語り部(佐川 修さん:国立ハンセン病資料館運営委員、多磨全生園入所者自治会会長)のお話(50分) ③常設展示見学(60分) *解散後、多磨全生園内を自由見学(希望者のみ納骨堂へご案内)

参加費無料 **先着40人**

【参加申込方法】
次の項目をご記入の上、EメールかFAXで。
①講座名 ②名前 ③所属 ④電話番号 ⑤FAX番号 ⑥Eメールアドレス
*お一人様一通でお申し込みください。
*手話通訳をご希望の方は、その旨を、講座実施日2週間前までにご連絡ください。ご利用します。

【お問い合わせ先】
TEL 03-5777-1918 / FAX 03-5777-1803
Eメール shibajin2011@jinken.or.jp
ホームページ http://www.jinken.or.jp/




人権啓発冊子

子ども(小中学生)向け人権啓発パンフレット

「マンガで考えよう そうなんだ!人権」 「知ってる!? ケータイやインターネットも使い方ひとつで...」


マンガでわかりやすく表現したパンフレットです。人権について楽しく学ぶことができます。



A4判/24ページ/カラー
一般:280円(税込/送料別) 会員:220円(税込/送料別)

「やさしいことばで書かれた世界人権宣言」

世界人権宣言をやさしい日本語と英語で紹介したパンフレットです。




A4判/20ページ/カラー
一般:280円(税込/送料別) 会員:220円(税込/送料別)


NEW 人権ポケットブックシリーズ

⑭「引き裂かれた家族 北朝鮮による拉致」

ポケットに入る小さなサイズで大量配布におすすめです。



A6判/16ページ/カラー
一般:100円(税込/送料別) 会員:80円(税込/送料別)



人権ポケットブックIIシリーズも好評販売中!

①えせ同和行為 ②子どもの虐待 ③ISO26000と人権 ④ハンセン病差別撤廃原則及びガイドライン ⑤セクシュアル・ハラスメント ⑥パワー・ハラスメント

【お問い合わせ先】
販売担当 TEL 03-5777-1916 / FAX 03-5777-1803 / Eメール sales@jinken.or.jp

人権センター 販売

アイユ(ALLYU)とは ヘルシーの先住民族の言葉・ケチュア語で「人々の集まり」を意味しています

発行人 横田洋三
〒105-0012 東京都港区芝大門2-1-10
KDX芝大門ビル4F
TEL 03-5777-1802(代) / 03-5777-1803
ホームページ http://www.jinken.or.jp

人権ライブラリー・インフォメーション

読み語りのご案内は22ページをご覧ください!

開館時間 月曜日~金曜日 9:30~17:30

【上映会】 3月21日(水) 14:00~15:40(開場13:30) **入場無料、申込不要、当日先着順**
上映作品:「ふるさとをください」94分/2008年

【企画展示】 展示作品:「人権啓発ポスター・新聞広告展~平成23年度 人権啓発資料法務大臣表彰より~」 **入場無料**

■2月27日(月)~3月12日(月) 北海道・東北・関東甲信越・北陸・東海・近畿(三重県、滋賀県、京都府)の自治体の作品
■3月16日(金)~3月30日(金) 近畿(大阪府、兵庫県、奈良県、和歌山県)・中国・四国・九州の自治体の作品
*9:30~17:30(土・日・祝日休館)

※展示、上映内容は変更する場合があります。
場所:当センター併設(最寄駅:JR・東京モノレール「浜松町」駅、都営三田線「芝公園」駅、都営大江戸線・浅草線「大門」駅。各出口から徒歩5~8分)
問い合わせ先:TEL 03-5777-1919/FAX 03-5777-1954/ホームページ http://www.jinken-library.jp/
図書・ビデオ・展示パネルなどの貸し出しも行っています。どうぞご利用ください。

法務省	「全国共通 人権相談ダイヤル」	0570-003-110	(ゼロゼロみんなのひやくとおぼん)
法務省	「女性の人権ホットライン」	0570-070-810	(ゼロナナゼロのハートライン)
法務省	「子どもの人権110番」	0120-007-110	(せろせろなのひやくとおぼん)
文部科学省	「24時間いじめ相談ダイヤル」	0570-0-78310	(なやみ言おう)